



安芸市の医療・介護連携プロジェクトについて



- ・ 高知龍馬空港から車で約30分
- ・ 高知市から車で約50分

高知龍馬空港

安芸は
ここ



安芸市の高齢者を取り巻く状況と課題

【H28年3月末】総人口 18,100人

高齢者数 6,776人（高齢化率37.4%）

【H29年3月末】総人口 17,786人

高齢者数 6,854人（高齢化率38.5%）

【第6期介護保険事業計画より】

○少子高齢化の進行

○住み慣れた地域での生活の継続

- ・地域のつながりが希薄化
- ・地域住民の支えあいによる独居高齢者の見守り、日常的な助け合いの活性化が必要

○医療と介護の連携

- ・要介護認定者の86%が75歳以上。介護ニーズに加え医療リスクも高くなる。

○要介護者の増加による介護給付費等の増加

- ・第1期（H12年度）約10.5億円 → 第6期（H28年度）約22億円へ
- ・H29年3月現在の要介護認定者（1号） 1,305人 要介護認定率19.03%

安芸市地域包括支援センター「ひまわり」

TEL 32-0555 土日祝日は、ひまわり携帯へ転送されます



直営：職員4名・臨時職員6名の10名体制

最初のきっかけ

高知県立あき総合病院と安芸市地域包括支援センターとの意見交換会（H25年4月18日実施）

【内科医師からの意見】

○保健・医療・福祉・介護スタッフは、それぞれの現場で活躍、奮闘しているが、病院の中にとお互いの姿や仕事の内容を理解できないことがしばしばある。

○安芸地域の在宅の介護力の弱さ、患者さんご本人、家族の病気、介護への理解力の乏しさ、経済的貧困を痛感する。

○介護施設での医療ニーズの高まりや、施設での看取りがこれからの課題

→ これらの諸問題を総合病院だけで解決するのは困難。

→ 住民の皆さんが安心して生活できるように、「保健・医療・福祉・介護がつながる“チーム”」になる必要がある。

安芸地域の看取りについての意見・情報交換会を開催（H26年2月25日）

【参加メンバー】

安芸地区医師会医師2名、県立総合病院医師、総合病院看護部長、民間病院看護師長、安芸福祉保健所長、特別養護老人ホーム施設長2名、グループホーム管理者、訪問看護師、介護支援専門員、訪問介護員、通所介護相談員、介護保険係（地域包括支援センター）

【課題】

- 看取りは医師一人だと精神的な負担も大きく、複数体制が望ましいが人材が少ない。訪問看護も少ない。→人材育成
- 施設での看取りは死亡確認をしてくれる医師がいない。
- 介護職員の看取りの経験がない→不安・恐怖感
- 本人、ご家族の看取りに対する希望→家族の合意形成

H26～H27年度 安芸市ゆたかな看取り総合支援事業を実施

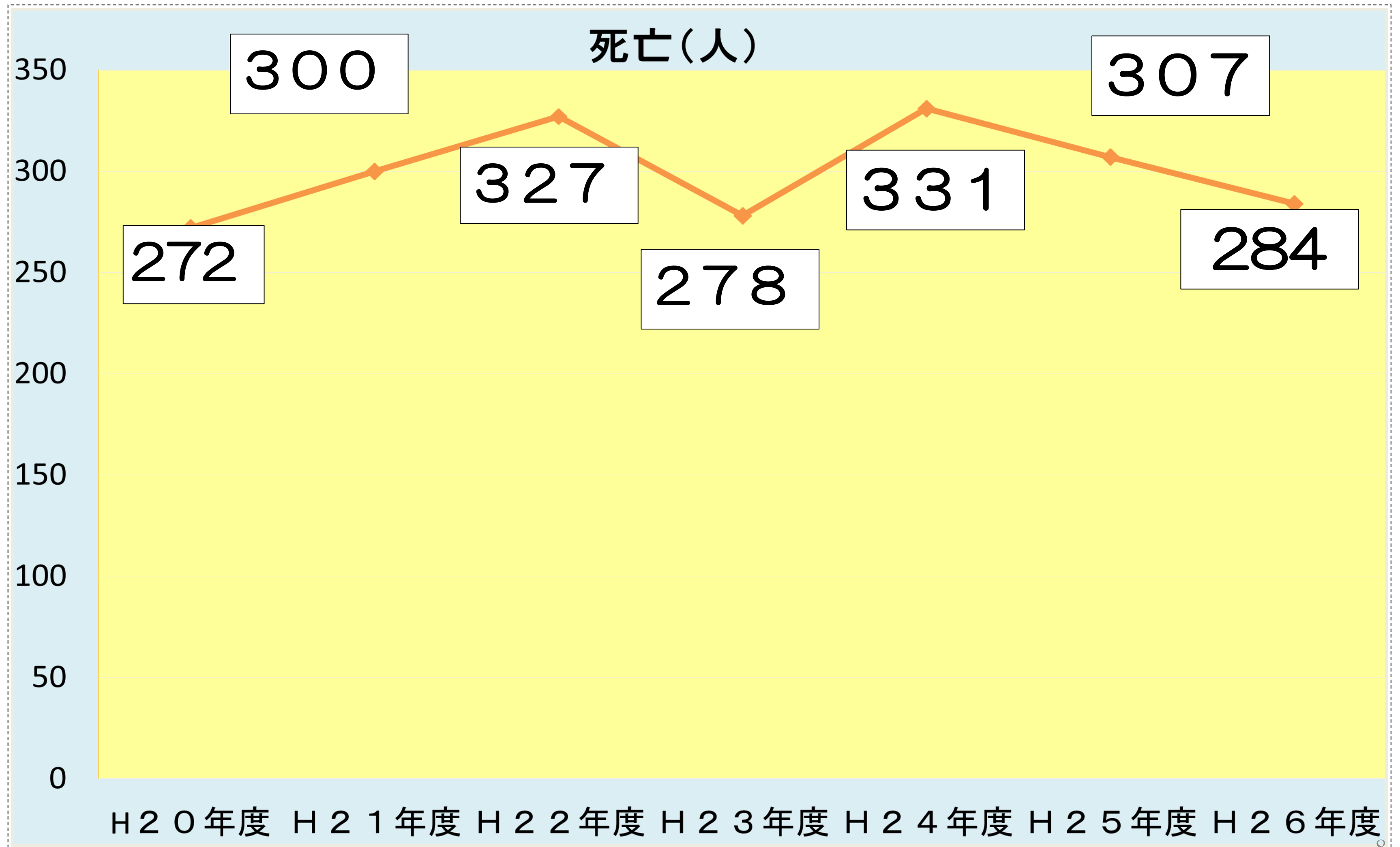
【事業の目的】

『自宅や施設などの住み慣れた生活の場で、最期まで自分らしく生きることができるように必要な体制について検討すること。』

【目標】

『人生の最期を選択できるまちに』

安芸市の死亡者数



死亡場所別死亡数（安芸市）

- 2008－2012年 年平均：300人
- 総数（率）：100.0%
- 病院（率）：87.8%
- 診療所（率）：2.0%
- 老人保健施設（率）：0.6%
- 老人ホーム（率）：0.3%
- 自宅（率）：7.5%
- その他（率）：1.8%

市民のニーズ

「第6期介護保険事業
計画策定時に65歳以
上市民アンケートを実施」

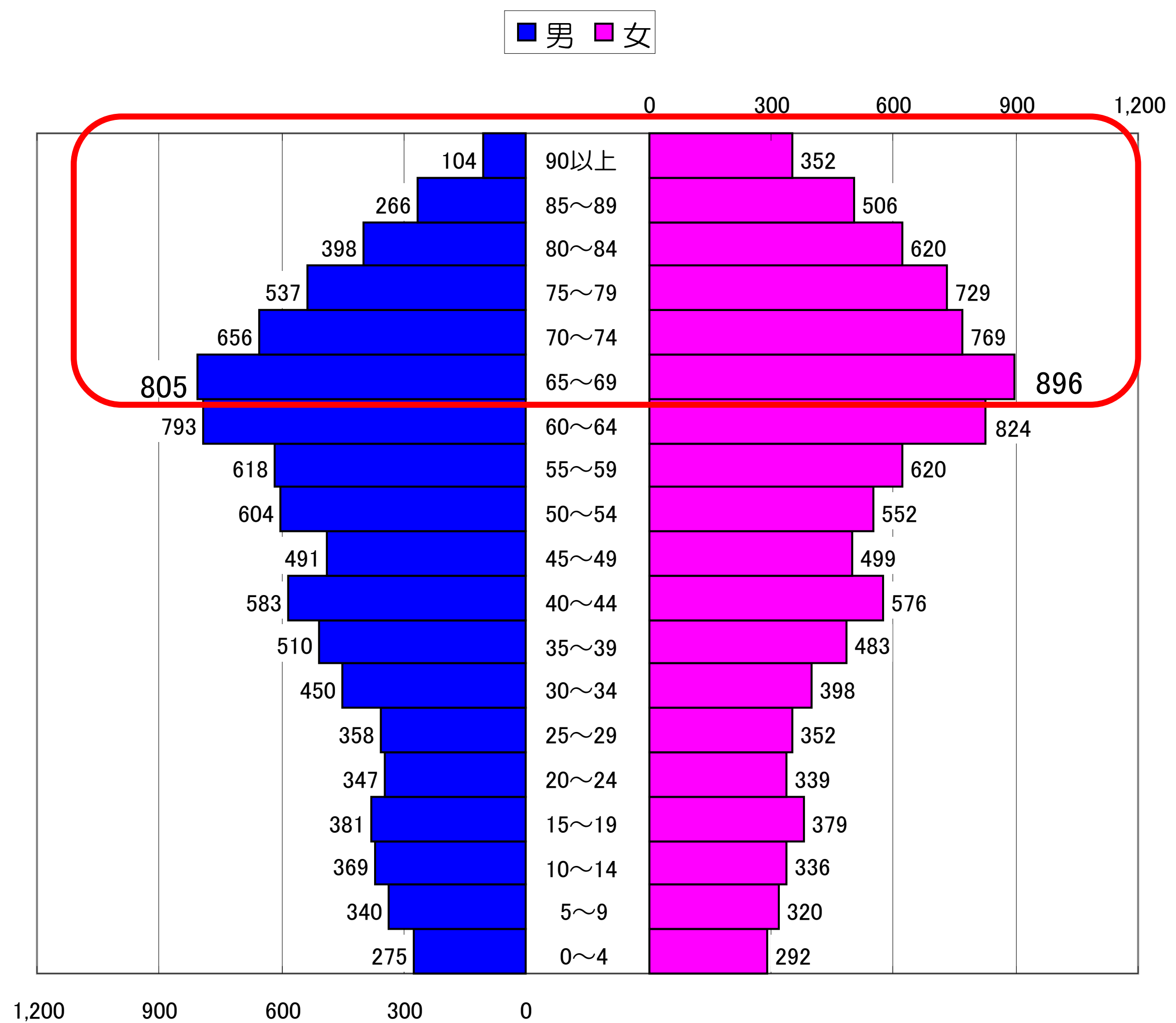
①終末期の療養生活

- 自宅44%(605人)
- 病院39%(536人)
- 施設9%(123人)

②人生の最期

- 自宅50.4%(693人)
- 病院35.7%(491人)
- 施設7.1%(97人)

人口ピラミッド (平成26年9月末現在)



H26～H27年度
安芸市ゆたかな看取り総合支援事業を実施

看取りの体制を整備するための**3本柱**

①市民への啓発

②サービス提供機関の体制整備

③関係機関・多職種ネットワーク

※高知県在宅医療連携体制整備事業費補助金（県10/10）
を活用

安芸市ゆたかな看取りプロジェクト会議

- ・委員 21名 （年3～4回開催）

（地区医師会医師、県立病院医師、民間病院医師、病院看護師2名、歯科医師、薬剤師、訪問看護2名、特別養護老人ホーム2名、通所介護、訪問介護、介護支援専門員、小規模多機能居宅介護、グループホーム、社会福祉協議会、安芸福祉保健所2名、安芸消防本部、市民課1名）

- ・アドバイザー1名（高知県立大学）
- ・事務局 介護保険係
（地域包括支援センター）



ワーキング部会の設置

- 医師ワーキング部会（年2回程度）
- パンフレット作成ワーキング部会（H27年度のみ）



市民への啓発

- 市民向け死生学講演会、終活講座（相続・遺言・葬儀・エンディングノート・家族の看取り）
- 看取りフォーラムinあきの開催（3回開催）
- 在宅医療と介護保険についてのパンフレットの作成
- 看取り事例集の作成

サービス提供機関の体制整備

【目標】

看取りを行う施設や事業所の拡大

【方法】

- ①先進地視察
- ②人材育成（専門職の心構え・技術の向上研修）
- ③介護職員向け看取りの手引き等冊子の作成

安芸市ゆたかな看取り総合支援事業プロジェクト会議 平成26年度～平成27年度





♪ワールドカフェ♪

「ゆたかな看取りをするうえで
課題と思うことは？」
「こんなことが必要！どんなこ
とならできそう？」

市民向け 「楽しく学ぶ、終活講座」



楽しく学ぶ、「終活講座」

主催 安芸市ゆたかな看取り総合支援事業プロジェクト会議
安芸市

第一回テーマ 遺言・葬儀



平成26年度開催

医療・介護専門職向け 石飛幸三先生 講演会 「いのちの最期に寄り添う看取り」



東部の医療機関・介護事業所
等から164名参加

特養 八流荘「看取り勉強会」

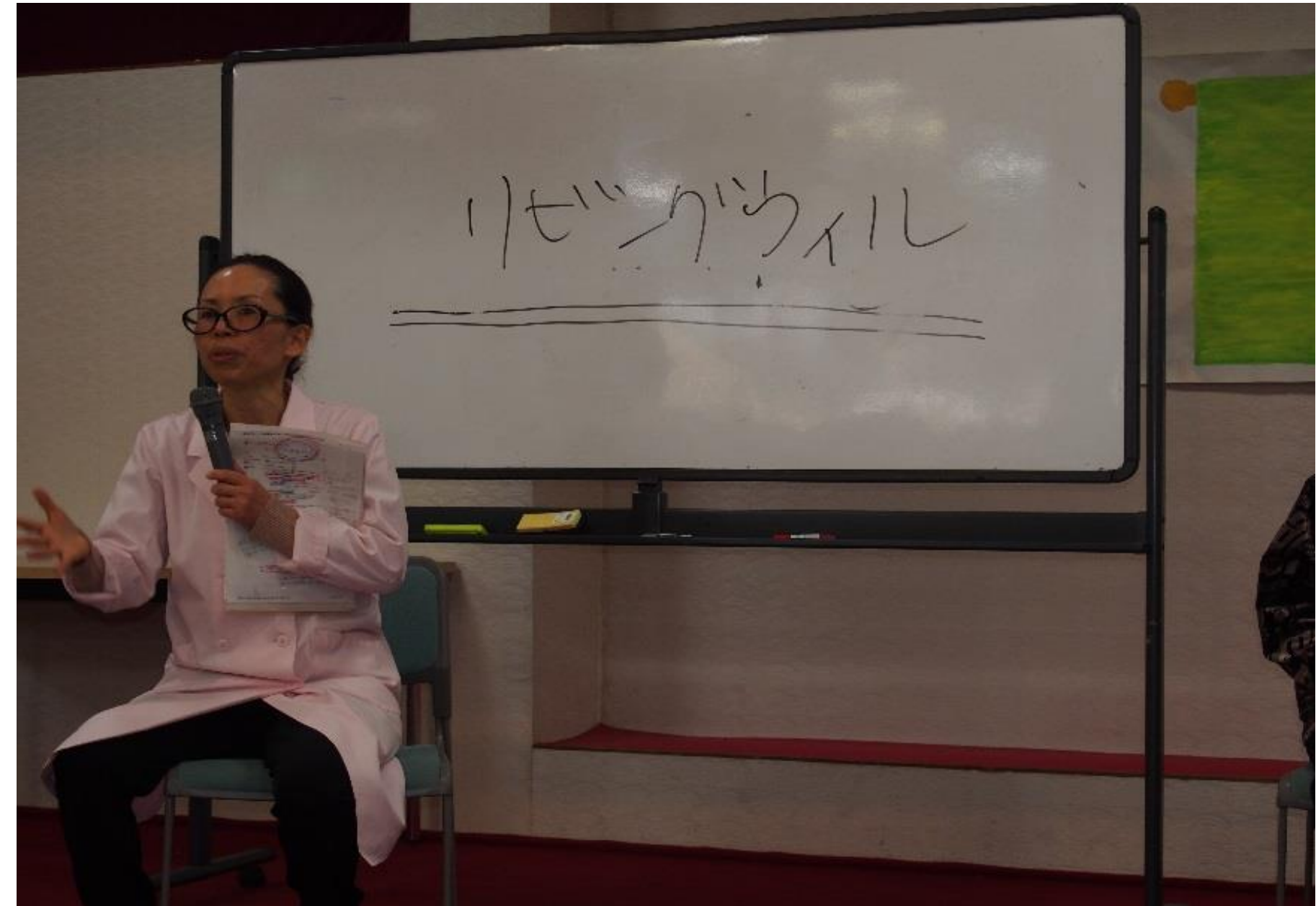
講師：県立あき総合病院 的場医師





第3回看取りフォーラムinあき 250名参加







おわりに

H26年度から2年間取り組んだ「安芸市ゆたかな看取り総合支援事業」は、H28年4月に「在宅医療・介護連携推進事業」にシフトし、看取り以外の課題にも取り組みを広げています。

昨年初めて安芸市で実施した口腔ケアシンポジウム“いつまでも自分の口で食べられるために～私たちにできるケア～”をテーマに安芸市内の医療・介護専門職が93名参加。アンケートでは、「第1位：口腔ケアの知識を高めたい、第2位：口腔ケアの技術を向上させたい、第3位：医療機関との連携が必要という回答結果で、今後も医療・介護職等の合同研修に取り組み、地域全体で口腔ケアが向上していくように取り組んでいきたいです。

安芸市は小さな市で社会資源は限られていますが、今後も医療・介護等関係者等が現場で困っていること等意見を出し合える場を作り、発展させ、色々数多くある課題解決のために、プロジェクト会議等で関係機関と話し合いながら、取り組みをすすめていきたいと考えています。

これまでの歩みを振り返ると、目標「人生の最期を選択できるまちに」に少しずつ近づいていると感じています。

資料 安芸市内にある医療・介護の社会資源

【医療】

病院 2箇所
診療所 12箇所
訪問看護 2箇所
歯科診療所 8箇所
薬局 21箇所

【介護】

地域包括支援センター（市役所内）
居宅介護支援事業所 10箇所
訪問介護 6箇所
通所介護 6箇所
通所リハビリ 2箇所
小規模多機能居宅介護 1箇所
認知症対応型通所介護 1箇所
認知症対応型共同生活介護 4箇所
介護老人福祉施設 2箇所
ケアハウス 2箇所